



北海道情報大学 同窓会会報

第8号

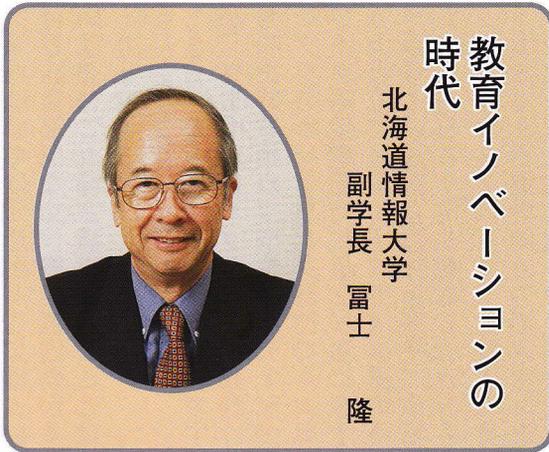
発行
北海道情報大学 同窓会

教育イノベーションの時代

北海道情報大学

副学長 富士

隆



北海道情報大学のキャンパスに、今、新しく10階建ての校舎（eDCタワー）の建築が進んでいます。平成元年に開学し、20周年を記念して、松尾 泰理事長の新しい図書館を建てたいという意向で進められています。本学を取り巻く環境は、開学当初とは様変わりしており、厳しい環境ではありますが、教職員一丸となって頑張っておりますので、その一端を卒業生の皆さんにご紹介したいと思います。

日本の大学に共通している環境の変化の一つは、学生の多様化です。優秀な学生もいる中で、大学で学ぶ

基礎学力やモチベーションの不十分な学生が増加しています。従来の教育方法やシステムでは、教育が困難な状況になってきているのです。環境の変化の二つ目は、教育の質の保証です。今や、大学も国際化の進展の域外ではありません。単に所定の単位数を修得すれば卒業できることから「何ができるのか」が求められることになり、新たなカリキュラムや教育手法が求められています。文部科学省も、平成20年度に授業の質を高めるための組織的な取り組みであるファカルティデベロップメント（FD）を大学に義務付け、優れたFDの取り組みをしている大学に補助金をだすというスタンスに変わってきています。従って、大学は、このような競争的資金を獲得し、教育のイノベーションを行わなければならない時代となっていると言えましょう。

幸い、本学はeDCグループによる産学連携により、情報技術を教育の分野で活用するという面で他大学よりも進んでいます。例えば、競争的資金の獲得では、平成17年度に、文科省の現代GP（グッドプラクティス）として「ITによるIT人材育成フレームの構築」の取り組みが採択され、他大学に先駆けて「学習

者適応型eラーニングシステム（POLITE）」を3カ年で開発しま

した。学生の多様化に対応するソリューションの一つであり、学習者の理解度に適応して初級・中級・上級の教材で学習できる仕組みを実現しています。既に情報システム関係の科目でe授業が展開され、教育の底上げに役立っています。平成20年には、文科省の教育GPとして「ICTによる自律的FD推進モデルの構築」の取り組みが採択され、現在FD委員会に9つのワーキンググループが設置され全学的な活動として行われています。授業の質を高めるために必要な情報をファカルティポータルフォリオというデータベースに蓄積し、教員がその情報を共有しながらPDCAサイクルを回そうというシステム（CANVAS）です。各教室での授業は、教室に設置されたカメラを通してファカルティポータルフォリオに蓄積され、各教員は、その映像を見ながら授業の改善に役立てることが出来ます。また、学生による授業評価アンケート結果や、ピアレビュー制度といった、教員が他の教員の授業を参観し、良いところを参考にし、アドバイスするなど、そのような情報も共有しながら授業改善につなげていきます。昨年には、

本学の4名の教員がFDで進んでいる米国の大学を訪問し、FD活動の現場を調査してきました。そして、今年の9月には、その訪問先のカニシアス大学からFDの専門家を中心に招き、新しい教育方法であるアクティブラーニングなどの研修を行いました。さらに、カリキュラムの見直しも、カリキュラム・アドバイザリーボード会議を設立し、企業や病院等の識者からレビューしていただきました。その成果は、平成23年度のカリキュラムとして準備が進められています。育成する人材像とそのために必要なコンピテンシー（知識、スキル）を明らかにしながら、必要な科目を整理した内容になっています。GPA、チュータ制度、教育アドバイザー制度等の新しい制度にも取り組んでいますので、Webサイト (<http://www.do-johodai.ac.jp/project/index.html>) をご覧いただければと思います。

平成元年に開学以来、この9月で本学の卒業生は、4,566名になりました。今、わが国は、本当に厳しい局面にあり、その中で卒業生の皆さまは、それぞれのお立場で頑張っておられると思います。北海道情報大学は、皆さまの母校でございます。今日、ここまで本学が発展してきたのも卒業生の皆さまの頑張りが支えになっているものと考えます。

『教育イノベーションの時代』、学生、教職員、そして卒業生の皆さんと共にいつまでも誇れる大学を目指して行きたいと思っております。